

## ▼広域観光推進協議会のあゆみ

### 県による世界遺産登録運動

山形県を縦貫する最上川の中でも、特異な地形から手つかずの景観美が残る「五百川峡谷」を軸に、広域的に観光・交流事業を推進していこうと設立された「白鷹・朝日・大江広域観光推進協議会」。平成20年6月の設立当時は、ちょうど山形県による「最上川の文化的景観」の世界遺産登録運動の機運が高まっていた頃でした。この流れを受け、本協議会では初年度、「最上川・五百川峡谷シンポジウム」を開催。会のメインテーマであり、身近な観光資源でもある最上川をあらためて見直すとともに、五百川峡谷の特異性やすばらしさを再確認しました。

### 左荒線街道ツアーを開始

翌21年度、県による世界遺産登録の推進事業は中止

## 白鷹・朝日・大江広域観光推進協議会 第1期活動（3年）のあしあと

### ▼平成20年度

- 最上川・五百川峡谷シンポジウム開催
- 五百川峡谷踏査（現地視察）
- 3町広域観光パンフレット作成

### ▼平成21年度

- モニターツアー試乗会・ガイド研究会
- 3町広域モニターツアー実施
- まぼろしの左荒線街道ツアー

（10月3日～11月15日の週末7回／誘客数56人）

### ▼平成22年度

- まぼろしの左荒線街道ツアー  
（5月29日～6月13日の週末6回／誘客数45人）
- 民間旅行会社バスツアーへのルート採用  
（3社、12回／誘客数595人）
- 3町広域観光パンフレット更新

されることとなりますが、本協議会では前年度の活動を踏まえ、同年から3町の観光スポットを巡る「まぼろしの左荒線街道ツアー」を開始（後述）。あわせて前年度作成した広域観光パンフレットを活用し、広く情報発信を行いました。

22年度はこの事業を継続したほか、積極的な営業活動を展開。その結果、複数

## ▼3町を結ぶ3つのキーワード

### 最上川「五百川峡谷」

白鷹町荒砥から朝日町を通り大江町百目木に至るまでの約30<sup>キロ</sup>の区間は「五百川峡谷」とよばれ、最上川の流域の中でも景観の美しい区間とされています。

両岸は切り立った崖に阻まれていて、浅瀬や急流部が混在する舟運の難所でしたが、江戸時代の元禄期に、川底を削る大規模な舟道開削工事が行われると、以後は舟運が活発化しました。

### (社)土木学会選奨土木遺産

後世に残すべき土木建造物の保存を目指し、社団法人「土木学会」が平成12年に創設したもので①歴史文化・社会的価値②土木技術の高さ③まちづくりへの活用可能性④土木遺産の保護などを評価基準に認定されるものです。

県内では現在、5件が認定を受けていますが、3町ではそれぞれ1件ずつ橋梁が認定を受けています。



荒砥鉄橋（白鷹町）



旧明鏡橋（朝日町）



旧最上橋（大江町）

## 「選奨土木遺産」とは？…

後世に残すべき土木建造物の保存を目指し、社団法人土木学会が平成12年に創設。県内にある5件のうち、3町でそれぞれ1件ずつ橋梁が認定を受けています（平成23年9月1日現在）